

識別番号	P 2	2006 年度完了学内共同研究
研究課題	人文科学・総合人間科学教育支援のためのデジタル環境	
研究代表者	鈴木雄雅（新聞学科）	
共同研究者	山岡三治、佐久間 勤（以上神学科）、大橋容一郎（哲学科）、 服部 隆（国文学科）、澤田 肇（フランス文学科）、金山 勉（新聞学科）、 荻野美佐子（心理学科）、冷水 豊（社会福祉学科）	
Summary	This research aims to develop the digital circumstances and skills of utilization for computer assisted of university's staff. The process of individual research would give their potentiality for managing daily classes or presentation for academics. However, the effect of research recommends FD should develop more practical digital methods.	

## 1. 本研究の目的及び背景

標記の教育・研究領域において、今日デジタル機器に利用・応用は極めて重要な役割を果たしている。既に 2 回（計 6 か年）にわたり、本共同研究（人文科学教育支援のためのデジタル環境）は継続され、一定の評価を得てきた。しかしながら、文字、映像、音源情報を多様な形で処理し、これらを素材とした教育を推し進めていくことは、これからの大学教育における重要な課題の一つであることは今後も継続して、支援及び教育素材の開発に努めることが必死であり、教育環境の整備充実をめざし、次のことを行う。

- ① デジタル環境を整え、その活用に関するスキルの開発を試み、教員への FD の一環とする。
- ② 効果的利用についての情宣と、それを授業において活かす方法を検討する。
- ③ 教材の工夫とプレゼンテーションにおける情報機器の役割を検討する。

## 2. 研究の方法・内容と共同研究員の役割分担及び成果

本研究は共同研究員のみでなく、関連領域の文学部・神学部教員・総合人間科学部所属の機器利用者が上記目的に沿って、各個の授業開発、研究開発を試みるのが特徴である。いずれも本研究の助成対象となった 7 号館 8 階の文学部・神学部共用パソコン室に設置されているコンピュータ機器（汎用ソフト・スキャナー・プリンター・デジタルビデオ編集器など）を利用しての成果である。2006 年度新に購入した機器＝新 OS (Vista) 搭載 ソニー VGC-RM91S2 HD ワークステーションほか、汎用ソフトを購入

### (1) SPSS ソフトの利用と報告書の作成など(冷水 豊)

- ① 統計ソフト SPSS を使い同室の PC で統計解析を行ったほか、収集した調査データの再分析に利用。
- ② 「施設利用支援のための情報ツールおよびアセスメントツール」の開発を、パワーポイントを活用して文字、図形、写真等を組み合わせてカラフルに作成し、それを同室のカラーレーザー・プリンターを使って印刷した。

(2)マッキントッシュサーバの管理と運営の試み(澤田 肇)

①2005年度まで輪講で開講した全学共通教育科目「人文科学とマルチメディア」での成果の一部を公開した <http://133.12.17.160/~balzac/multimedia/index.html>

②科学研究費補助金による「19世紀挿絵本」研究の成果の一例である「パリの悪魔」のカテゴリー別インデックスの作成と公開

<http://133.12.17.160/~balzac/illustres/index.html>

(3)主としてスライド画像変換と授業資料などの作成の試み(児嶋由枝)

①2006年度は前年度に引き続き、スライド画像からデジタル画像への変換(スキャン)が作業の中心であった。専門が美術史学であることから、膨大な数のスライドを保有している。しかしスライド画像の場合、質の劣化が免れず、また近年はスライド映写自体が稀になりつつある。こうした状況を鑑み、スライド画像変換を計画的に進めた。

②新たに制作したデジタル画像整理—タイトル付けおよびCDへの焼付けである。

③授業用のスライドショーの製作—パワーポイントではなくライドショーを用いるのは、作業は簡便なだけでなく、画像のみを全画面に映し出せるという利点がある。

(4)学科公式サイト・個人授業サイトの更新(鈴木雄雅)

①共同室に設置されているPC及びソフトを活用して、引き続き学科公式サイト更新と大学院社会学分野の単位互換制度(文研・新聞学専攻)を構築した。

<http://www.info.sophia.ac.jp/sophiaj/>

<http://www.info.sophia.ac.jp/sophiaj/tani-gokan07/index.html>

②授業資料サイトの更新を継続 主としてジャーナリズム史、国際コミュニケーション論の領域にて授業資料及びデータベースとして役に立つサイトを構築、更新している。関連記事のスキャナーによるアップも行っている。

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/file/materials07.htm>

③資料的価値のあるビデオ(VHS)のデジタル化により、授業での映像活用の効率化を試みた。

### 3. まとめ

本研究は1.で上述したように、主として7号館8階の文学部・神学部共用パソコン室に設置されているコンピュータ機器(汎用ソフト・スキャナー・プリンター・デジタルビデオ編集器など)を利用して、①コンピュータ機器を利用しての授業開発と研究の活性化にかかわる環境整備②デジタル教育環境の進展する状況を鑑みつつ、FDとの連関を含めて遅滞なく教員の研究力の向上・支援に寄与する③教員の多面的な授業運営及び研究向上に寄与する、ことを目的として設けられた共同研究である。共同研究という名目ではあっても、実際には教員個々が同室に設置された機器類とソフトを利用、活用(使いこなす)することにより、教育・研究の向上を目指すものである。同時に、とくに文系教員のスキル向上には欠かせない人材を養成する面をも重要な課題であり、それを担ってきた側面も意味あるものとする。

2006年度も個人研究費などではまかなえない、とあってメディアセンターのような統括

部署や発足したばかりの FD 委員会でも視野に入っていないと思われる教員のスキル向上のためのインフラの整備—デジタル録画・編集用および新 OS(Windows Vista)機器、ソフト—を導入することにより次世代マシン及びソフトに対応する準備ができた。次につながるステップを乗り越えたと思われる。

提言 上述のとおり、こうした教員の授業環境やスキルの向上に全学的にどのように対応するかどうかという議論のたたき台として本報告や共同研究者からのヒアリングは欠かすことができないであろう。その際には、人材を含めてぜひ活用されることを望む。また数年来の課題と思われる統括部署にて機器の維持や管理を行うかどうか、換言すれば本学のデジタル教育環境の整備をこれ以上遅らせることは限りなく他大学との競争とその差を埋める機会を逸していると言言する。

以上

例：2007 年度新聞学科寄附講座サイト(講義概要をダウンロードできる)

The screenshot shows a web browser window with the address bar displaying 'http://www.info.sophia.ac.jp/sophiaj/jeenza06/index.html'. The page title is 'ジャーナリズムの現在 2006 (毎日新聞社寄附講座)'. The main content is a table with the following structure:

日時	コーディネータ	および講師	講義内容	
1 4月18日	岸井 成格 (毎日)		スクープと権力	<a href="#">講義概要</a>
2 4月25日	根津 千景 (TBS)		スクープとネットワーク	<a href="#">講義概要</a>
3 5月2日	山本 修司 (毎日)		スクープと内部告発	<a href="#">講義概要</a>
4 5月9日	小片 格也 (共同通信)		スクープと情報源秘匿	<a href="#">講義概要</a>
5 5月16日	大治 朋子 (毎日)		スクープと匿名情報源	<a href="#">講義概要</a>
6 5月23日	渡辺 雅春 (毎日)		旧石器捏造スクープ	<a href="#">講義概要</a>
7 5月30日	岩井 克巳 (朝日)		皇室のスクープ	<a href="#">講義概要</a>
8 6月6日	土屋 直也 (日経)		経済のスクープ	<a href="#">講義概要</a>
9 6月13日	大島 秀利 (毎日)		アスベスト特報 <b>井植文化賞</b>	<a href="#">講義概要</a>
10 6月20日	瀧永秀一郎 (毎日)		リフォーム特報	<a href="#">講義概要</a>
11 6月27日	吉田 健二 (週刊現代)		年金特報	<a href="#">講義概要</a>
12 7月4日	谷川 哲也 (愛媛新聞)		警察内部告発	<a href="#">講義概要</a>
13 7月11日	中井 良則 (毎日)		議論とまとめ	<a href="#">講義概要</a>
<b>後期 災害と報道</b>				
1 10月3日	宮本 勝行 (毎日)		記者も犠牲になった—雲仙普賢岳・火砕流の教訓	<a href="#">講義概要</a>
2 10月10日	瀧永 秀一郎 (毎日)		「都市型災害」と報道の役割	<a href="#">講義概要</a>
3 10月17日	宮澤 祐介 (毎日)		海外の災害報道から 米国カトリーナ	<a href="#">講義概要</a>
4 10月24日	深井 麗雄 (毎日大阪)		被災者に何を伝えたいか—阪神大震災と「希望新聞」	<a href="#">講義概要(資料)</a>
5 11月7日	中尾 卓英 (毎日)		震災の教訓から防災教育へ—「まうさい甲子園」	<a href="#">講義概要</a>
6 11月14日	鴨志田 公男 (毎日)		予知と科学報道—地震災害を中心に	<a href="#">講義概要</a>